

# 令和4年度 学校推薦型選抜 試験問題

金沢美術工芸大学

学科・専攻	第2次選考試験問題
<b>芸術学専攻</b>	<p><b>小論文A</b></p> <p>次の文章は、鶴岡真弓『「装飾」の美術文明史—ヨーロッパ・ケルト、イスラームから日本へ』（日本放送出版協会、2004年）の抜粋です。この文章を読んで、「オリエンタリズム」という言葉の意味を200字程度で自分なりに要約しなさい。</p> <p>また、現代文化におけるオリエンタリズムについて、具体的な例を挙げながら、400字程度であなたの考えを書きなさい。</p> <p><b>小論文B</b></p> <p>配布された作品の図版を見て、以下の文章や作品の時代背景にも留意しながら、800字程度で論じなさい。</p> <p>作品名 : マンホールB            作者 : 曹 良奎 Jo Yang-Kyu            制作年代 : 1958年            技法 : 油彩 カンヴァス            大きさ : 縦130.0cm、横97.3cm            所蔵 : 宮城県美術館</p> <p style="text-align: right;">※文章は実際の試験問題を参照</p>
<b>視覚 デザイン 専攻</b>	<p><b>実技試験</b></p> <p>任意のオノマトペを画面に自由に配置し、音からイメージを広げて魅力的な画面を構成しなさい。</p>
<b>製品 デザイン 専攻</b>	<p><b>実技試験</b></p> <p>カップ麺にお湯を注ぐ電気ケトルをデザインしてください。</p>
<b>環境 デザイン 専攻</b>	<p><b>実技試験</b></p> <p>配布された素材を用いて、重そうに見える立体一個と軽そうに見える立体二個を作り、「愉快的なシーン」をテーマに立体構成として台紙（段ボール紙A3サイズ）上に仕上げなさい。</p> <p>完成した立体構成を想定したテーマが最も表現されている位置より鉛筆デッサンしなさい。</p>
<b>工芸科</b>	<p><b>実技試験</b></p> <p>与えられた「チンゲンサイ」をモチーフとし、自由に想定した直方体を組み合わせ、粘土を用いて立体表現しなさい。</p>

※ 第1次選考は書類審査です。

次の文章は、鶴岡真弓『「装飾」の美術文明史―ヨーロッパ・ケルト、イスラムから日本へ』（日本放送出版協会、二〇〇四年）の抜粋です。この文章を読んで、「オリエンタリズム」という言葉の意味を二〇〇字程度で自分なりに要約しなさい。また、現代文化におけるオリエンタリズムについて、具体的な例を挙げながら、四〇〇字程度でああなたの考えを書きなさい。なお、問題に合わせて、本文の画像番号を変更しています。

私たちが知っている小説や音楽や絵画や工芸や建築にまで表現され、それが現実のものとして歴史化された「オリエント」「東洋」とは、あくまでヨーロッパが作り上げたイメージだったのだ、という見直しが近年になされた。エドワード・サイードによれば、「オリエンタリズム」とは西洋の「オリエントに対する支配の様式」であり、東洋という異質な「他者」の「後進性・受動性・官能性・非歴史性」などの特性を強調して小説や絵画に表現することでした。

ヨーロッパ人の考えでは、中近東や北アフリカやインドや中国そして日本までのアジアは、「古代」のままに停滞しており、西洋人が獲得した人間の尊厳と自由の精神をいまだもたず、「東洋的専制」が続く非文明的な社会でわがままな為政者の奴隷になっているとして、現実にも芸術のなかでも徹底してそうした東洋がイメージ生産されていったという指摘です。サイードには東洋対西洋の二項対立が固く、彼亡きいま、それを批判する言説も出てきてはいますが、サイードの膨大なテキストを渉猟しての「証明」を受け渡された私たちが、そうしたオリエンタリズムの表象が根強くあることを否定することはできないわけです。

たとえば、一九世紀の幕開けにナポレオンはエジプトからその古代遺産をパリにもたらし、エジプト学が開かれ、オリエントの「古代」はヨーロッパの解明にさまざまな寄与をしたはずでした。が、それはヨーロッパによる征服と啓蒙と近代化という、現在の私たちの世界でも起こっている「文明の

発展史観」を西洋が東洋に押しつけるかたちで行われました。同時代のドイツの哲学者ヘーゲルもそうしたオリエンタリストとして「歴史哲学」を語り、古代ギリシアがオリエントのペルシアに勝利したことや、十字軍がイスラームから聖地奪還をめざしたことは、人間主体の永遠の自由を西洋が獲得した歴史であると考えたのでした。

ヘーゲルの言い回し、すなわち、エルサレム（オリエント）にキリストの墓はあるが、西洋はその物質には「永遠に別れを告げ」て、主体の無限の自由精神という西洋のまったき原理を獲得したというレトリックのようなフレーズに、当事のキリスト教知識人は感動させられていたのです。オリエントにはこの自由精神はないというのが、西洋の歴史認識だったのです。

しかし、こうした近代ヨーロッパ人がオリエントとオクシデントを透明に「区別」したとしても、オリエントへの「支配の欲望」は「憧れ」とないまぜになったもので、芸術はブルジョワジーの優越的な趣味を満たすために消費されつつ、その表現のなかにときおり普遍的な真理を浮かびあがらせました。ヨーロッパ人のオリエントへの情念をうまく融合させて代弁した絵画も、数多く生み出されました。フランスの新古典主義の画家アングルの「グラン・ド・オダリスク」(図①)も、ロマン主義の画家ドラクロワの「キオス島の虐殺」も、象徴主義のモローの「踊るサロメ」(図②)も、表現のスタイルは違っても、同じオリエントを幻想させています。いずれの絵も、ヨーロッパの外部に、異常に情念的でエロティックで野蛮で古代的に停滞しているながらも、ここにはない神秘を見たいという鑑賞者の欲望をかなえています。

そして文字通り「絵画のなかのオリエント」を幻想させる最大の小道具が、「アラベスク文様」でした。たとえばフランスのナポレオン三世が一八六〇年代にオスマン・トルコの「近代化」に介入した頃、現地コンスタンティノープルでフランスの画家ジャン＝レオン・ジェロームが描いた「蛇使い」という作品があります(図③)。このいかにも幻想のイスラーム世界を演出している絵は、背景のブルーに染まった「アラベスク文様」によって最大の効果を発揮しています。藍釉のタイルの精緻なアラベスク文様が、蛇使いやターバンや褐色の肌や絨毯というオリエント・イメージを、壮大に統一しているのです。

文明化したヨーロッパにはない恐ろしい余興、しかしそれを操る少年は、白人の白い肌をして新古典主義特有のギリシア彫刻のような透明さをもっています。また周りの人々は闇のように肌の黒い、遠ざけるべき「人種」もいるかわりに、姿のよい老人はヨーロッパ人が東方の異境にいると夢想した「古代の賢者」然と描かれている。要するにこのジェロームの作品は、その他の「オリエント絵画」同様、西洋の美的理想をオリエンタル・モチーフで描き

きるといふ、まさにイメージの東方、表象のオリエントの産出なのです。

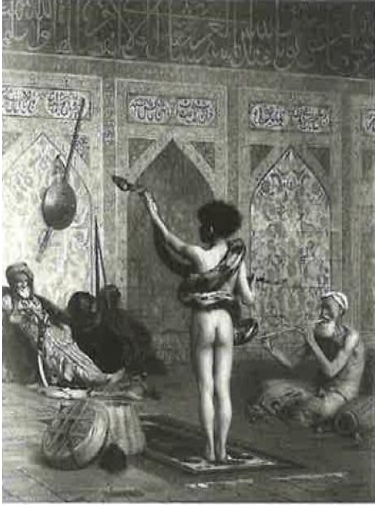
ヨーロッパ人は自分たちの手持ちのイメージでオリエントを夢想し、味わい愉しんだ。「人は知っていることしか描けない」と言ったのは、視覚心理学者で美術史家のゴンブリッチでした。ヨーロッパ人はヨーロッパのイメージの範疇でオリエントを描いたに過ぎないとすれば、彼らの知らないオリエントは、彼らのイメージにおいて永遠に到来しないのです。ともあれ、サイードの名著『オリエンタリズム』の原著の表紙を飾ったことでも知られる作品「蛇使い」は、圧倒的な「アラベスク」の演出によって万人のオリエント幻想を満足させるのです。



図① アンゲル「グランド・オダリスク」  
(一八二四年 パリ ルーヴル美術館蔵)



図② モロー「踊るサロメ」(部分)  
(一八七六年頃 パリ モロー美術館蔵)



図③ ジェローム「蛇使い」(部分)  
(一八八〇年頃 スターリング・F・クラーク・アート・インスティテュート蔵)

本問題は、令和4年2月15日に著作権法第67条の2第1項の規定に基づく申請を行い、同項の適用を受けて作成されたものです。

## 令和4年度

金沢美術工芸大学 美術工芸学部 美術科 芸術学専攻

学校推薦型選抜 入学試験問題 小論文B

配布された作品の図版を見て、以下の文章や作品の時代背景にも留意しながら、800字程度で論じなさい。〔解答は別紙〕

作品名： マンホール B  
作者： 曹 良奎 Jo Yang-Kyu  
制作年代： 1958年  
技法： 油彩 カンヴァス  
大きさ： 縦130.0cm、横97.3cm  
所蔵： 宮城県美術館

「私が画の勉強を本格的に始め出したのは、正確には一九四五年八月十五日以降、日本帝国主義の崩壊によって、ともかく朝鮮が一時的にせよ解放の喜びに湧き立っていた時であり、ちょうど歴史の重大な転換期と妙に重なる形としてであった。

(略)

大部分の日本の戦争世代がそうであったように、私もまた、ただつかみどころのない状況に埋没して行くなかで、青年期の不安から逃れようとする受動的な心理状態であり、日本の敗戦を軸に、開放感と同時に虚脱感にうちひしがれていた。」

曹良奎が絵画制作とほぼ同時期に執筆した論考「日本の友よ さようなら—北朝鮮への帰国を前に自作を語る」からの抜粋です。（『美術手帖』1960年10月号、116頁）

受験番号	
------	--

令和4年度  
金沢美術工芸大学 美術工芸学部  
デザイン科 視覚デザイン専攻  
学校推薦型入試 第二次選考問題（実技試験）

## 【問題】

任意のオノマトペを画面に自由に配置し、  
音からイメージを広げて魅力的な画面を構成しなさい。

## 【条件】

- ・オノマトペは仮名（ひらがな・カタカナ）で表記すること。
- ・オノマトペは擬音語・擬態語・擬声語を意味します。
- ・別紙に制作意図を記入してください。
- ・与えられた用紙（B4 ボード）の全面を使用してください。
- ・縦横は自由とします。
- ・与えられた画材で着色してください。
- ・与えられた下書き用紙にアイデアを何パターンか展開し、用意された B1 ボードに貼って提出してください。

## 【注意】

- ・色見本帳の使用は禁止します。
- ・持参した絵具の使用は禁止します。
- ・試験問題に関する質問は認めません。
- ・問題用紙、下書き用紙は試験終了後、すべて回収します。

以上

# 令和4年度学校推薦型選抜第2次選考 実技試験

金沢美術工芸大学美術工芸学部 デザイン科 製品デザイン専攻

## ■問題

**カップ麺にお湯を注ぐ電気ケトルをデザインしてください。**

## ■デザインの条件

- 1、デザインするのは、ケトルと電源プレートとします。
- 2、主に以下の3つの機能を考慮してください。
  - ・給水のしやすさ（フタの開閉）
  - ・電源のオン / オフの操作と状態表示
  - ・お湯の注ぎやすさ（注ぎ口の形状）
- 4、容量は500mlとします。
- 5、造形・素材・色彩は自由に考えてください。
- 6、与えられた粘土で丁寧に取っ手のモデルを作り、持ちやすさや注ぎやすさを検討してください。

## ■提出物

### 1、最終提案の着彩スケッチ：B3用紙1枚

- ・提案するデザイン1点を、わかりやすく精密に描いてください。
- ・デザインポイントを用紙の余白にイラストや文章で簡潔に表現してください。

### 2、草案用紙：A3用紙2枚

- ・異なるアイデア、形、機能など考えたことを表現してください。

### 3、粘土で検討した取っ手の実物大モデル

\*1と2を別紙のレイアウト図を参照し、スチレンボードに貼り付けてください。

## ■注意

- 1、提示したサンプルは参考とし、とらわれないでください。
- 2、与えられたサンプル、材料、道具類は試験終了後に回収します。
- 3、この問題用紙も提出してください。



受験番号：

令和4年度

金沢美術工芸大学 美術工芸学部デザイン科 環境デザイン専攻  
学校推薦型選抜 第2次選考問題

[問題]

配布された素材を用いて、重そうに見える立体一個と軽そうに見える立体二個を作り、「愉快的シーン」をテーマに立体構成として台紙(段ボール紙 A3 サイズ)上に仕上げなさい。完成した立体構成を想定したテーマが最も表現されている位置より鉛筆デッサンしなさい。

[条件]

- ・ 立体物は台紙(段ボール紙 A3 サイズ)に接着して固定しなさい。
- ・ 立体物の面の配色は、配布された素材で自由に設定してよい。
- ・ 立体物の大きさは台紙の幅、奥行の範囲とし、高さ 30cm を超えてはならない。
- ・ 鉛筆デッサンはすべてフリーハンドで、描きなさい。

[注意]

- ・ 問題に関する質問には答えられない。
- ・ デッサンは受験番号を書く欄を裏側とし、表側に描きなさい。
- ・ 立体物を配置する台紙は受験番号を書く欄を裏側とし、表側に立体物を固定しなさい。
- ・ この用紙を試験会場から持ち出すことを禁止し、試験終了後に回収する。

令和4年度

金沢美術工芸大学 工芸科 推薦入試

実技試験 (立体表現)

令和3年11月27日(土曜日)

午前8時30分～12時30分

## 問題

与えられた「チンゲンサイ」をモチーフとし、自由に想定した直方体を組み合わせ、粘土を用いて立体表現しなさい。

- 条件1. モチーフ及び直方体の大きさ、個数は自由とする。
2. 解答作品は塑像板から高さ30cm以内とする。
  3. 解答作品は塑像板からはみ出さないこと。
  4. 粘土は必要な量だけ袋から取り出して使用すること。

- 注意1. 用具は募集要項に指定された持参用具と机上のもの以外使用してはならない。
2. 配布されたヘラは加工してはいけない。
  3. 粘土の中に異物を入れてはいけない。
  4. モチーフ並びに配布用具は持ち帰らない事。

モチーフ チンゲンサイ 1個

配布用具 水粘土1kg×10個、塑像板、粘土ヘラ一式、霧吹き、粘土板、  
雑巾2枚、エスキース用紙5枚、30cm直定規1本